

発行にあたって

日ごろは、全国牛乳容器環境協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。紙面からで恐縮ではありますが、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も一昨年同様、日本列島は多くの自然災害の影響を受けました。特に、秋には非常に強い台風が上陸、あるいは接近して強風や浸水等大きな被害をもたらしました。亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。これらの自然災害の激しさには地球温暖化による海水温の上昇の影響もあると考えられ、私たちは環境問題の重要性を改めて感じる事になったと言っても過言ではないと思います。

国際的な環境問題への対応として、プラスチック素材の問題ではありますが昨年6月に日本で開催されたG20において、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンを宣言し、前向きなプラスチック資源循環政策が示されました。

一方、紙パブリックリサイクルの指標である紙パブリック回収率は、調査開始以来、順調に向上してまいりましたが、ここ数年は伸び悩み傾向となり、2018年度は前年度比微減となっています。容環協では昨年6月末から7月上旬にかけて、環境への意識が高い欧州における、紙パブリックの回収・分別・リサイクルの実態を把握するために視察を企画し、実施しました。「一人ひとりが環境を考え、行動していく社会」を目指して、紙パブリックリサイクルの普及・拡大に向けた取組を続けるためにも、環境意識の高い地域の実態を学ぶことは意義があると感じています。詳しくは、2019年度欧州視察報告書をご覧ください。

私たちは、回収率を高める対応として、各委員会制度の運営充実と専門委員の活動に注力してまいりました。総務委員会では、自治体の環境担当部署を訪問し、より効果的な広報活動や回収の仕組みづくりに向けた意見交換、消費者啓発のための協同取組などを行っています。広報委員会では、継続してホームページの改修や展示用パネルの内容充実を図ると共に、ごみ袋へのリサイクル情報掲載、AR(拡張現実)技術の活用など、新しい手法を用いて紙パブリックリサイクルの周知活動に取り組んでいます。イベント委員会では、6月のエコライフ・フェア、12月のエコプロへの出展、地域の大規模量販店における紙パブリック



全国牛乳容器環境協議会
会長
城端 克行

リサイクルイベントなどにより、多くの市民の皆様にも、分別排出・回収の呼びかけを行っています。自治体との連携による紙パブリックリサイクル講習会のほか、全国の小学校への出前授業も継続開催して、小学校の環境教育の中で「大事な紙資源、もったいない」を学習できる機会としています。支部組織委員会では、全国の会員がかかわる地域の環境イベントに積極的に参加しています。来場者に紙パブリックリサイクルを啓発するための展示・クイズパネルなどを利用いただける体制を整えた結果、恒例行事として定着したイベント件数が増えています。ミルク段ボール製紙パブリック回収ボックスの希望拠点への配布も継続しております。

その他の取組のご紹介を含め、1年間の活動内容を総括してここに「2020紙パブリックリサイクル年次報告書」をまとめたので、ぜひお目通しいただき、ご意見・ご指導をお寄せいただければ幸いです。

市民団体の「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」様をはじめ、様々なステークホルダーの皆様との協働も進めてまいります。会員の皆様におかれましては、今年にも増して更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2020年1月

回収率向上アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会(以下、容環協)では、「2020年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パブリックの回収率向上を目指しております。

具体的な取組は以下のとおりです。

《目標》
紙パブリック回収率
2020年度 **50%以上**

- 自然の恵みを大切にし、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パブリックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進します。
- 再生可能な資源である紙パブリックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パブリックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開します。

【主な取組】

- 1.回収率を高める場づくり
 - ①ステークホルダー会議などの充実
 - ②地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー
 - ③地域の環境活動(紙パブリックリサイクル講習会の開催(全国牛乳パックの再利用を考える連絡会(以下、全国パック連)と連携))などへの参加と情報共有

2.様々な生活の場における回収促進

- ①生活の場に根ざした回収力向上(紙パブリック回収ボックスの提供、環境メッセージ広告を紙パブリック商品に掲載する環境キャンペーンの実施、工場見学者に対する紙パブリックリサイクル啓発の実施)
- ②牛乳1000ml以外(500ml、200mlなど)の回収促進
- ③紙パブリックとしての分別の促進
- ④再活用から資源価値の高い再生紙へ
- ⑤屋外や店舗で飲まれる紙パブリックの回収促進

3.教育や学習の場における活動の促進

- ①教育・学習とリサイクルの協調(小学校での牛乳パックリサイクル出前授業の開催(全国パック連と連携)・牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールへの協賛)
- ②学校給食用牛乳パック(以下、学乳パック)の回収率向上

4.コミュニケーションの充実

- ①ステークホルダーとの対話と協調
- ②再生品の利用促進
- ③様々なイベント等への参画
- ④インターネットなどによるコミュニケーション(容環協HP・牛乳パック探検隊HP)
- ⑤国際的連携の推進



CONTENTS

活動トピックス

- 「プラン2020」……………2
- 環の縁結びフォーラム……………3
- 紙資源の組成分析調査……………4
- 海外調査……………5
- リサイクル促進意見交換会……………6
- 紙パブリックリサイクル講習会……………7
- 牛乳パックリサイクル出前授業……………8
- エコライフ・フェア／エコプロ2019……………10
- 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール……………11
- その他の活動……………12

活動報告ダイジェスト

- 2018年度 紙パブリック回収率……………14
- 2018年度 紙パブリックマテリアルフロー……………16

2019年度活動報告

- 小売事業者のリサイクル状況……………18
- 福祉施設のリサイクル状況……………19
- 市町村回収・集団回収の状況……………20
- 学校のリサイクル状況……………22
- 製紙メーカーのリサイクル状況……………23

紙パブリックのリサイクル学

- 紙パブリックを取り巻くダブル循環……………24
- 全国牛乳容器環境協議会の概要
- あゆみ……………26
- 容環協の発行物……………28
- 会員一覧……………29



「プラン2020」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進しております。2019年の主な活動は以下のとおりです。

1.総務委員会

(1)回収力を高める場づくり

2月に東京都で「飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会」を開催しました。10月に「地域会議」を開催すべく、千葉県各市と回収率向上に向けた取り組み、紙パックリサイクルの現状と課題について情報交換・意見交換を行いました。台風15号の被害状況を考慮して開催を中止しました。

(2)様々な生活の場における回収促進

新たな試みとして東京都民間保育園協会に所属の保育園にアンケート調査を実施しました。回収実態が不明の外食産業もあわせて、今後も回収率向上に向けた実態調査に取り組んでいきます。また、雑がみにおける紙パック混入率を把握すべく、組成調査を実施しました。

(3)教育や学習の場における活動の促進

学校を核とした回収力強化の一環として、出前授業時に学乳パック回収について引き続きヒアリングを行っています。また「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」を作成し、関係部署へ配布しました。

(4)コミュニケーションの充実

各専門委員会と連携しステークホルダーとの対話と協調に努めました。今年は海外組織との連携を図る目的で欧州視察を実施しました。

2.広報委員会

(1)インターネットメディアの活用

スマートフォンによるAR(拡張現実)を応用した啓発コンテンツを夏場から再開してリサイクル講習会やイベントで使用し、ホームページにて告知しました。

(2)新規広告媒体の活用

三鷹市のごみ袋外装(MサイズとSサイズの2種類)に

紙パックリサイクル啓発の広告を掲載し、同市のホームページに容環協のバナー広告を掲出しました。

(3)「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」の制作
全国パック連と協力して3つの学校のリサイクル活動を取材・掲載し、牛乳パックの開き方などの基本知識やいろいろな工夫をわかりやすくQ&Aで紹介しました。

(4)年次報告書2020の企画・編集に取り組みました。

3.イベント委員会

(1)紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と協働して小学校5校で出前授業を開催、全国パック連・平井代表の講義や手すきはがきづくりを通して、計230名余りの児童に環境教育を実施しました。また、同様に自治体や店舗4ヶ所でリサイクル講習会を開催しました。

②エコライフフェア2019、エコプロ2019と新たにCC等々カエコ暮らしフェア、八千代ドーンと祭など地域環境フェアに出展しました。CC等々カエコ暮らしフェアに出展したことにより川崎市との繋がりができたので、今後のリサイクル促進につなげていきます。

(2)牛乳紙パックで「遊ぶ学ぶ」コンクール

今期は過去にDM発送していない私立、国立の149小学校への案内、乳業各社の見学コースを有する工場へのポスター掲示など裾野拡大に努め2,316作品の応募が有りました。

4.支部組織委員会

(1)地域の環境活動などへの積極的支援及び参加

①容環協会員の本社および地域事業所が、容環協の各種パネルや冊子などを活用して独自に紙パックリサイクル啓発活動を実施すると共に、柏市リサイクルフェア2019等の地域の環境活動にも積極的に参加しました。

②牛乳の日「ミルクフェア」等自治体や地域の乳業協会などと連携し、啓発ツールの貸し出しや再生品(トイレトペーパー)提供を行いました。アンケートは内容を見直して継続実施し、得られた情報を調査の参考としました。

国、NPO、市民団体、関連企業などが 参加し、紙パックリサイクル循環システムの 現状と今後について情報交換が されました。

【環の縁結びフォーラム】11月21日

全国パック連が主催、容環協が協賛する「環の縁結びフォーラム」及び全体交流会がTKP新宿カンファレンスセンターにて開催されました。今回のテーマは「紙パックリサイクル循環システムの現状と今後」で、国、NPO、市民団体、関連企業など延べ54名の方々が参加しました。

主催者の全国パック連・平井代表より、本年多発した自然災害で被災された方々へのお見舞いの後、開催趣旨説明として地球環境問題が世界中で話題になっている中、牛乳パックという小さなテーマであっても、経済性を保ちリサイクル循環システムを維持することの必要性を改めて感じている。しかし今年に入り中国の再生資源輸入制限措置の影響により、リサイクル品価格下落、廃プラ残渣処理費の高騰が牛乳パックリサイクルの採算性悪化を招いています。問題が山積みですが関係各位と意思を共有それぞれの立場における課題と対策を考える機会にしたい、との話がありました。

協賛者挨拶として容環協・城端会長より、行動計画「プラン2020」に従い紙パックのリサイクルが継続的に進むよう、全国パック連と協働で様々な啓発活動を行っています。今日のフォーラムは、各方面で連携されている皆様と交歓できる大切な機会であり、「もったいない」の言葉で繋がる「環(わ)」をご縁に、さらなる強固な結びつきができる場であると、挨拶がありました。

来賓挨拶では、経産省素材産業課より、海洋プラスチック、中国の再生資源禁輸措置など、様々な問題が山積みの中、行政としてリサイクル推進を進めなくてはならない、有意義な議論となることを期待していると、挨拶がありました。

パネルディスカッションでは、製紙メーカー、業界紙、プラリサイクルメーカーがパネリストになりました。

初めに、調査会社より古紙問屋・製紙メーカーの調査報告がされたあと、業界紙から、昨年までの古紙逼迫、価格高騰が現在、在庫過多、価格大幅下落と古紙をめぐる一変した社会環境状況が分かり易く説明されました。

製紙メーカーからは、中国の再生資源輸入制限の影響で、主要古紙在庫が大幅に増え、短期的に改善する見込みは見えない。同時に、プラ残渣輸入制限から、紙パックをリサイクルしている製紙メーカーの中で、プラ残渣の処理が、コスト面で問題になっていると説明がありました。

プラリサイクルメーカーからは、新しい技術を用い、プラスチックの種類ごとに分別しマテリアルリサイクルを実施していることが紹介されました。紙パックからのプラ残渣については、工程・処理方法を検討しており、生成されたプラスチックリサイクル品をどのようなものに継続使用できるか、処理コスト低減が課題であるとの説明がありました。

まとめとして、様々な社会要因変化の中、地道な活動の積み重ねと、紙パックの有用性を周知・啓発・徹底することが重要であること、リサイクルに関わる立場の違う人々が問題を共有し、力を寄せ合う「情報の環 心の環」が大事なことであると、結ばれました。続く全体交流会では、参加者の間で活発な情報交換が行われ、盛況のうちに散会となりました。



主催者挨拶 全国パック連 平井代表



パネルディスカッション



紙資源の組成分析調査

分別排出の現状を知るため
紙資源の組成分析調査を
実施しました。

【紙資源の組成調査】5回実施

紙パック回収を行なっている市町村では、分別排出のルールを市民向けパンフレットやホームページで公開しています。しかし、消費者が紙パックをせっかく分別しても雑誌や雑がみに混ぜて排出してしまい、有効に回収されない実態があることも分かっています。

そこで、容環協では印刷工業会液体カートン部会や紙製容器包装リサイクル推進協議会(以下、紙推進協)で行われる組成分析調査に参加し、雑がみ中の紙パックの混入率について継続的に調査しています。

印刷工業会液体カートン部会では、本年よりコンビニやスーパーで近年急激に増えてきた注ぎ口付き紙パックのリサイクルの現状を把握するため、2月と11月に実態を調査しました。市中から回収される紙パックの中に注ぎ口付き紙パックがどのくらいの比率で入っているのか、また回収された注ぎ口付き紙パックの注ぎ口部分の処理について、注ぎ口を取っているか、それともそのままの状態を出しているかを調査しました。その結果、アルミ無し紙パックで注ぎ口が付いているものは前回調査より増えていること、アルミ無し紙パックの場合、アルミ付き紙

パックより注ぎ口を付けたまま回収に出す傾向が高いことが分かりました。

3月と6月の紙推進協の調査では、「紙製容器包装」として回収されたものを24種類に分類し、紙パックが別の分類で混入されている状況を調査しました。

また8月には4年ぶりに容環協単独での組成調査をコアレックス信栄(株)様のご協力により行いました。愛知県のある市町村から製紙会社を集められた雑がみを調査しましたが、書籍・新聞・雑誌の混入率は高かったものの紙パックの混入はごくわずかで分別状況は優秀でした。

今後も国内の雑がみ中の紙パック混入率について正確な値を把握する目的で組成分析調査を継続的にを行い、紙パックの回収率向上につなげていきたいと思ひます。



容環協独自の組成調査(コアレックス信栄)



印刷工業会液体カートン部会の組成調査に参加

海外調査

フィンランド、ベルギー、
イギリスを視察し、
取組状況を確認しました。

【北欧製紙メーカーと欧州のリサイクル状況について視察】

第6回の海外視察として6月から7月にかけてヨーロッパのフィンランド、ベルギー、イギリスを訪問し、原紙製造工程、原料となる森林の管理状況、リサイクル工程を視察すると共に、欧州の紙パックリサイクル推進組織ACEとの情報交換を行いました。

原紙製造工程としては、Stora Enso社Imatra工場を見学しました。同社はリサイクルサーキュラーモデルを企業戦略の中心としており、リサイクル可能な製品開発のためパートナーとの協業を行っています。CTMP(ケミサーモメカニカルパルプ)使用による原紙の軽量化やMFC(マイクロファイブリセルローズ)の利用についても検討を進めていました。

森林管理に関しては、年間20百万㎡の木材を製材所の原料、製紙工場のチップ、バイオマス燃料等の用途として供給するStora Enso Wood Supply社が管理する森林を見学しました。フィンランドでは個人が61%の森林を所有していますが、多くは都会に住んでいる為に森林の管理は管理会社に任せるケースが多くなっています。また個人所有の森林は代々引き継ぐ財産という観点から、大切に管理されているとのことでした。フィンランド全土では、森林の成長量が伐採や枯死による消費量を上回っており、年間25百万㎡増加しているとのことでした。

リサイクル関連として、フィンランドのSuomen

Kuitukiertätyts社(リサイクル施設)を訪問し、原紙メーカー、飲料メーカーから回収手数料を徴収していることや家庭から排出される液体用紙容器は他のごみと混在していることが多いことなどを確認しました。ベルギーのVALTRIS(ソーティングセンター)では、自動分別装置導入により処理量は大きく増加したが複合素材の分別は難しいとの情報を得ました。イギリスのSonoco Recycling社では、紙パックや紙コップをリサイクルして紙管や板紙を製造すると共に、残渣として生じるポリエチレンとアルミニウムの混合物はオランダに送って成型品に再利用されていました。

ACEとの打合せでは、EUでの液体用紙容器のリサイクル率は48%(目標:60%)としていること、キャビテーション技術の応用で繊維の回収効率が向上してきたこと、2021年7月から施行されるシングルユースプラスチックに関する法律の影響、などについて説明を受け、サーキュラーエコノミーへの取組も含めて日本への影響について考えさせられました。



ベルギーのソーティングセンター



Stora Enso社Imatra工場



ACEでの意見交換

リサイクル促進意見交換会

関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第31回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2月14日に乳業会館にて、環境省リサイクル推進室、農水省食品産業環境対策室、自治体関係者、流通関係者、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカーなど計50名出席のもと、開催しました。

最初に容環協の城端会長から三つのポイント、一つ目は日本の文化とも言える、洗って開いて乾かして出すという地道な活動の継続及びより効果のある活動推進、二つ目は高齢化社会を迎えて高齢者及び増加する外国人居住者への対応、三つ目は注ぎ口付き紙パックへの対応の必要があるとの挨拶がありました。農水省から、環境問題、資源問題が世界的に大きな課題となっている中で紙パックリサイクルの取組は大変意義があるとの挨拶を、環境省から、プラスチックごみ問題が大きな話題になっており、子どもたちへの環境教育に力を入れている紙パックリサイクルにおいて、さらにいろいろな方への周知啓発を積極的に行ってほしいとの挨拶がありました。

次に事務局から容環協の概要と2017年度の回収率の説明を行いました。使用済み紙パックには、まな板などに再利用されるもの(9.7千トン)や他の古紙として回収後に紙パックとして選別、資源化されながらも回収量に計上されないもの(0.9千トン)があり、これらの扱いについて継続検討し



ステークホルダーのみなさん

ていく旨の報告を行いました。続いて4つの専門委員会の活動状況を各委員長から報告しました。

調査会社からは、2017年度の紙パック全体の回収率は43.4%と前年度より0.9ポイント減少したことに関する詳細内容の説明を行いました。

後半の意見交換では昨年、注ぎ口付き紙パックについていろいろな意見をいただいたことに対して容環協からは統一見解としてボトル形状の紙パックは底から開くことで簡単に上部のプラスチック部分を取ることができると取って出すこと、その他の注ぎ口付き紙パックは原料問屋・製紙メーカーの負担低減のために注ぎ口を取って出しても構わないことなどを説明しました。ほとんどの自治体からは注ぎ口付きの扱いについて特に広報を行っていないこと、ボトル形状の紙パック上部の注ぎ口を簡単に取ることができると知ったので広報啓発していきたいとの意見もありました。その他のテーマとして自治体の外国人への啓発方法の紹介や容環協の新たなアプローチ先としての保育園、幼稚園の状況、学乳パックの乳業メーカーによる引き取りができなくなったことなどについての情報共有が行われました。

環境問題、プラスチック資源循環についての注目が高まる中で紙パックの回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要になってくると考えさせられる意見交換となりました。



活発な意見交換

紙パックリサイクル講習会

現状を知っていただき、
実際にリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

【福岡県 久留米市】7月25日

田園に囲まれた宮ノ陣クリーンセンター内の環境交流プラザで開催された、こどもなつやすみ教室「エコなつ」のイベントの一つとして「牛乳パックで紙すき」講習会を実施し、小学生42名、幼児11名、保護者27名の合計80名に参加していただきました。

講習会は、日本の牛乳パックリサイクルに関する話から始まり、就学前の幼い子どもも一所懸命に講義に耳を傾け、紙パックの主な原料についての質問には少し迷いながら「しんようじゅ(針葉樹)?」と答えていました。

続く紙パックの手開きでは、多くの子どもたちが初めての経験に真剣に取り組みました。また注ぎ口付き紙パックの手開きでは、じゃんけんを勝ち抜いた代表の子どもたちが皆の前で挑戦。少し難しそうながらも無事開くことができました。

手すきはがきづくりでは、水に分散させたパルプが一枚の紙になるまでの作業を親子で体験。乾燥時の湯気を見て「パルプが乾いて紙になるよ!」と子どもに伝えるお母さんや、「お父さんが楽器を演奏しているからトランペットの絵柄を選んだ」と話す男の子など、皆が思い思いの手すきはがきづくりを楽しみことができました。

夏休みの思い出が、紙パックに関連する環境問題を考えるきっかけになることを願いながら、会場を後にしました。



初めて挑戦する手開き

【神奈川県 相模原市】8月6日

真夏が続く中、今年も相模原市の橋本台リサイクルスクエアで行われた「4R(リデュース、リデュース、リサイクル)キッズスクール夏休みリサイクル体験教室」に協賛、牛乳パックリサイクル講習会を開催し、小学生21名、未就学児及び保護者23名の計44名が参加しました。

全国パック連・平井代表による講義の後、牛乳を飲みながらDVD「牛乳パック探検隊」を視聴し、飲み終えた牛乳パックを使って手開きの体験を実施。続いて2班に分かれ、交互に「手すきはがきづくり」と「ごみ収集車の試乗」を体験しました。牛乳パックのパルプでつくる「手すきはがきづくり」では、ワンポイントとなるすき込み用材料の絵柄を選び、世界で一枚のはがきをつくりました。一緒に参加したきょうだいや友だちと笑顔で出来上がったはがきを見せ合う子どもたちの姿が印象的でした。保護者の方からも様々な質問が寄せられ、紙パックリサイクルに一層興味を持ってもらえたようです。

最後の修了式では、相模原市の資源リサイクルイメージキャラクター「分別戦隊シゲンジャー 銀河」の一員である「ペーパーピンク」から、参加した子どもたち全員に体験教室の修了証と記念品が手渡され、笑顔で会を終了しました。



平井代表の講義

牛乳パックリサイクル出前授業



子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2019年も全国の小学校で、全国パック連と連携して
「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

出前授業講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックバルブ使用)」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【山梨県 大月市学童クラブなのはな】5月15日

大月市立七保小学校の児童を対象とした学童クラブ「なのはな」で、2～6年生の児童18名と教師・保護者9名の計27名が参加し、出前授業を行いました。昨年度から申込みをいただき、2年越しでの授業実現です。同校では紙パックの牛乳を給食で使用、1年生から手開きと回収を実施していますが、授業の中で地元の大月市から牛乳パックの回収運動が始まったことを知り、子どもたちは驚いたようでした。給食で屋根型パックの手開きに慣れている子どもたちがレンガ型パックの手開きを体験。「手すきはがきづくり」では、2年生も非常に興味を持って取り組んでいました。



牛乳パックの回収は大月市から始まったという話にビックリ

【大阪府 堺市立熊野(ゆや)小学校】6月25日

仁徳天皇陵(大仙陵古墳)にほど近く、1872年開校という歴史ある熊野(ゆや)小学校での出前授業。当日は4年生45名と担当教諭2名の合計47名が、社会の授業として参加しました。「リサイクルのお話」からスタートした授業。DVD「牛乳パック探検隊」視聴をはさみ、「手すきはがきづくり」では、初めての体験に緊張して紙すきに臨む子どもたちも、最後には「自分だけの世界に一枚しかないはがき」をつくった自慢げな笑顔でいっぱいでした。子どもたちには、この想い出と一緒に環境意識を身につけ、「紙パックリサイクルの輪」を広げていってもらいたいと、改めて感じました。



初めての紙すき体験に緊張きみのようす

【福岡県 北九州市立折尾東小学校】7月10日

北九州市八幡西区の小学校で、4年生2クラス46名を対象に出前授業を行いました。「リサイクルのお話」では、「洗って・開いて・乾かして」ひと手間かけることで、紙パックは有用な原料に変わるとの説明に、毎日給食の牛乳パックのリサイクルを行っている子どもたちも、改めて大切さがわかったようでした。「手すきはがきづくり」では、はがきができるたびに大きな歓声上がる盛り上がりを見せました。日ごろから積極的に環境教育を行っているという折尾東小の元気な子どもたちの姿に、環境・リサイクル教育の良い事例であると感じました。



手すきはがきを持って記念撮影

【佐賀県 吉野ヶ里町立東脊振(せふり)小学校】9月27日

国の特別史跡にも指定されている吉野ヶ里遺跡があり、豊かな自然と歴史の町である吉野ヶ里町の東脊振小学校で、小学4年生の児童62名と担当教諭2名の合計64名が参加し、出前授業を行いました。「リサイクルのお話」では、リサイクルがCO₂の削減にもつながることや、紙パックには「リサイクルありがとう」の表示があることを再認識。パネルなどを使った学習で紙パックリサイクルへの理解を深めた後、子どもたちは初めての「紙すき体験」に取り組み、最後に「世界で一枚のオリジナル手すきはがき」を持ち、元気な笑顔で記念撮影を行いました。



紙すき体験

【大阪府 大阪市立長吉南小学校】10月8日

大規模集合住宅の近くに立地する大阪市立長吉南小学校5年生2クラス61名を対象に出前授業を行いました。児童は熱心にメモを取り、紙パックから得られるバルブは大変良い品質であることなどを学びました。続いて各クラスが「手すきはがきづくり」と「クイズパネルや展示物を使った学習」の2グループに分かれて学習しました。児童は出来上がったはがきを見せ合い満足そうでした。また、パネル学習では講師の質問に大変活発に回答していました。今回の授業を通じて資源の有効利用としての紙パックリサイクルに理解が広まり、活動の大切さを実感しました。



世界に一つの手すきはがきが完成

エコライフ・フェア／エコプロ2019

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや紙すきを
体験しました。

【エコライフ・フェア2019】6月1日、2日

1990年に始まった環境省主催の「エコライフ・フェア」。今年も環境の日(6月5日)の前の土日に代々木公園で開催されました。容環協は2007年から参加しており、紙パックリサイクルのパネル説明やクイズ、手すきはがきづくり、使用済み紙パックを利用した小物づくりを行いました。

両日ともお天気に恵まれ、テントブースには2日間で約400名が来場されました。ワークショップ初日は、偶然にも6月1日の「牛乳の日」に重なり、牛乳を飲みながらのDVD「牛乳パック探検隊」の視聴後にクイズを出題しました。また、紙パックの手開き体験では、屋根型紙パックに加え、今年には新たに注ぎ口付き紙パックの手開きを行いました。紙パックの底から開くと思いのほか簡単に手開きできることに驚きの声が上がりました。この気づきをきっかけに、リサイクルの輪を広げていってほしいと思います。



容環協ブースは人が途切れないほどの人気



ワークショップ

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2019】12月5日～7日

「エコプロ」は、1999年から開催されている日本最大級の環境展示会です。2019年で21回目の開催となり、今回は「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマとしています。

容環協は今回も牛乳紙パック再利用マーク普及促進協議会と共同で出展しました。展示会全体の来場者数は147,653名、そのうち1,718名が容環協ブースに足を運んでいただきました。ブースでは貴重な資源となる紙パックの原料や構造、リサイクルルールなどを学ぶ卓上展示、現物のサンプルや「もったいないものがたり」パンフレットを活用したスマホ対応アプリによるAR(拡張現実)体験などを通じて楽しく紙パックに関する環境について学んでいただきました。さらに、「牛乳紙パック手開き体験」のワークショップや全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、様々な展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



今回は円形トラスが特徴の容環協ブース



多数の来場者で賑わう卓上展示コーナー

真崎 李奈子さんの作品
『しかけ絵本で学ぶ牛乳パックの
作り方』が見事最優秀賞に。

19回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2019」には全国の小学校より2,316作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞
『しかけ絵本で学ぶ牛乳パックの作り方』
真崎 李奈子さん(千歳市立末広小学校3年)
- ◆優秀賞 『牛乳パックの孔雀』
稲垣 優衣さん(さいたま市立浦和別所小学校5年)
- ◆優秀賞 『ZOOパック』
伊達 ころさん(広島市立矢野小学校5年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『ベダル式ゴミ箱』
土屋 悠音さん(相模原市立淵野辺小学校3年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『カフトむし』
阿武 朔太郎さん(静岡市立中田小学校1年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『ゆらゆらきもちい ミルクハンモック』
日野 琴美さん(高山市立江名子小学校4年)
- ◆日本乳業協会賞
『フルーカジキ』
東原 修司さん(吹田市立古江台小学校4年)

最優秀賞は北海道の小学校3年真崎 李奈子さんの作品「しかけ絵本で学ぶ牛乳パックの作り方」でした。小学校1年生の時に本コンクールへの応募をきっかけに、もっとたくさんの人に牛乳パックの作り方を知ってもらいたいとの思いから、楽しく分かりやすい「しかけ絵本」をつくってくれました。大変よく勉強し楽しく牛乳パックの作り方がわかる作品となっています。

受賞作の表彰式は「エコプロ2019」の容環協ブースにて12月7日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員会の容環協・城端会長をはじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学生向けホームページ「牛乳パック探検隊」で紹介されています。



最優秀作品「しかけ絵本で学ぶ牛乳パックの作り方」



最優秀賞受賞の真崎 李奈子さん



受賞者がそろっての記念撮影



その他の活動

全国パック連との連携に加え 容環協独自でも新たな イベントに参加しました。

【商業施設「アリオ橋本 アクアガーデン」】3月30日

相模原市では、1人1日あたり100gの家庭ごみの減量を目指して「相模原ごみDE71大作戦」を進めています。そのキャンペーンに毎年、全国パック連と連携して参加し、啓発活動を行っています。

今回はエコワークショップを開催し、家族連れのお客様が次々に来場されました。会場に使用済み紙パックとボックスティッシュの交換コーナー、手すきによるグリーティングカードづくりコーナー、クイズコーナー、牛乳を飲んで手開き体験コーナーを設置、使用済み紙パックを、12組の方々が179枚もお持ちくださり、また、紙パックのバルブを原料にしたグリーティングカードづくりに152名、飲み終えた牛乳パックの手開き体験に138名、パネル説明とクイズに127名の参加者となり、大変盛況となりました。相模原市の別隊戦隊シゲンジャー“ペーパーピンク”も、写真撮影などでお客様と交流していました。

クイズや体験などを通してお客様に「紙パックだけをまとめて回収拠点に出す」「注ぎ口付き紙パックも簡単に開くことができ、注ぎ口部分もハサミを使わなくても取れる」ことなどをお伝えすると、「どのように分別したらよいかかわからず、注ぎ口付きは購入したことがなかった」などのお声をいただき、まだまだ必要なことを十分にお伝えできていないと実感しました。今後の啓発活動の課題にしたいと考えます。



親子でクイズに挑戦

【第8回「CC等々カエコ暮らしフェア」】7月27日

等々力陸上競技場・場外イベント広場で毎年行われるプロサッカークラブの川崎フロンターレ、川崎市、川崎市公園緑地協会、富士通(株)川崎工場共催のエコ活動を楽しく学べる体験・参加型イベントに容環協も初めて出展、川崎フロンターレサポーター親子などの来場者60名の方々が手すきはがきづくりを体験しました。子どもたちの様子を保護者が熱心に撮影する姿もあり、家庭で動画など観ながら今日の体験について会話してもらえれば、紙パックリサイクルの良いきっかけになることが期待できます。新たな活動の場として良いスタートが切れたと思いました。



容環協メンバーによる手すきはがきづくり

【「八千代どんと祭」】10月20日

千葉県八千代市商工会議所主催「八千代どんと祭」で、八千代市役所グリーン推進課出展「リサイクルプラザ」の一角をお借りし、容環協として初出展しました。土日の2日間の予定でしたが、台風20号の影響で日曜のみの開催となったものの、最後まで雨は降らずイベント日和となりました。今回はパネル展示と紙パックリサイクルクイズで出展しましたが、家族連れを中心に446人の方がクイズに挑戦しました。環境関係のイベントではない商工会主催のお祭りへの出展となりましたが、有意義な一日となりました。



八千代市グリーン推進課の一角に出展

「学校給食用牛乳パック リサイクルの手引き」を 作成しました。

【学乳パックリサイクルの支援】

学乳パックリサイクルの未実施校を対象に、開き方やよくある質問、実施校の事例を盛り込み、見開きにまとめた手引きを作成しました。

学乳パックのリサイクルは、通常の牛乳パックのリサイクルと同様に「洗って開いて乾かして」を学校で児童が自ら行うことが基本ですが、学校の規模や地域によって、すこしずつやり方が異なるようです。例えば各自が開いた牛乳パックを給食係が洗って水切りかごに入れて乾かすやり方もある一方、牛乳パックを開かずに洗ったあと伏せて乾かし、翌日、係の児童が開く方法もあります。洗う前に、水を張ったたらいに一度ぐらせ予備洗いをする学校もあるようです。乾燥も、水切りかごを使わず、洗濯ばさみでつるして干すところもあります。

実施校に共通している点は、児童一人ひとりが負担を感じることなく、食器を片付ける感覚で手開きや水洗いを行っていることです。ホームページに掲載しておりますのでご自由にダウンロードください。冊子をご希望の方は容環協事務局までお申し込みください。(P.28参照)



「学校給食用牛乳パックリサイクルの手引き」

ごみ袋を用いた 啓発活動に取り組みました。

【三鷹市のごみ袋へ広告掲載】

普及啓発活動の一環として2018年の町田市のごみ袋に引き続き2019年は三鷹市のごみ袋への広告に応募し採用されました。

三鷹市のごみ袋は4種類のサイズがありますが、20Lと10Lを選定し、その外袋に「紙パックは捨てずにリサイクル」「古紙回収またはスーパーなどの回収ボックスへ」のメッセージと、牛乳パックを中心としたイラストを掲載し、市民の皆様へ紙パックリサイクルをアピールしました。10月から店頭に並び始め、半年間販売される見込みで広告の効果が期待されます。

三鷹市のHPに容環協HPへリンクするバナー広告も5か月間掲載され、容環協について知っていただける機会が増える効果もあります。

このように、不特定多数の皆様へ紙パックリサイクルの大切さを知っていただくことも重要と考えますので、新たな啓発媒体にも取り組んでいく予定です。



広告を掲載した2種類のごみ袋